

第120号

November 2016

# 図書館



## 校内読書週間

11月7日(月)～30日(水)

標語：いざ、読書。

## 全校一斉朝の読書

11月21日(月)～30日(水)

朝：8時～8時20分

昭和学院中学校・高等学校

# 読書のすすめ

学校長 大井 俊博



「読書百遍意自ら通ず(どくしょひゃつぺんいおのずからつうず)」という言葉があります。解釈としては、どんなに難しい書物であっても、繰り返し読むうちに意味が自然とわかるようになるものだという事。(百遍とは、回数が多いこと)

この言葉は、小学校時代、遊びに夢中(当時でいうガキ大将)で、本や読書という事にまったく興味がなかった私に、母親が業を煮やして教えてくれた言葉です。母親としては、「まず、本を読みなさい。そして、読んでその本に書かれていることを理解しなさい。わからなければ、わかるまで何回も読みなさい。」ということも伝えられたのだと思います。この言葉は、なんとなくインパクトがあり、お題目を唱えるように何回も繰り返し覚えたことを思い出します。それからしばらくは、自宅に完備されていた『イソップ童話』

や『グリム童話』などを片っ端から読んでいき(本来なら幼稚園で読破が普通)、次に、学校の図書館にあったアーサー・コナン・ドイルの推理小説『シャーロック・ホームズシリーズ』を読破することで、本を読むことが全然苦ではなくなり、楽しくなっていたのです。

中学時代には、自然と文学作品にも興味が変わるようになりました。『坊っちゃん』『吾輩は猫である』の夏目漱石から始め、いろいろな作家の代表作を読んでいくうちに、ある時、武者小路実篤という作家に行き着きました。まず、『友情』という本を読み人間関係の機微にふれるということに興味を抱き、『真里先生』や『お目出たき人』などのその他の作品にもトライし感動することを経験しました。これがきっかけで「ランダムに作品」というよりも作家に惚れ込んでそのシリーズを読み漁るといったパタ

ーンが確立したように思えます。

その後、私のはまった作家と代表作品とを紹介します。「氷点」の三浦綾子、『青春の門』の五木寛之、『砂の器』の松本清張、『破獄』の吉村昭、『時効』の横山秀夫、『容疑者Xの献身』の東野圭吾、『池袋ウエストゲートパーク』の石田衣良、『絆』の小杉健治、『警官の血』の佐々木譲、そして今、一番好きな作家が堂場瞬一、『刑事・鳴沢了シリーズ』でKOされファンになり、以降、たぶん60冊以上は読み続けていると思います。彼は、スポーツ小説や警察小説に独特の感覚で迫り、新しいジャンルを確立した人物で、とにかく、スピーディな展開の速さが魅力です。以上が、私の歩んできた「読書道」です。そして次に、私の人生の中で読書をしてきて良かったことを示します。

①幅広い情報や知識が身についた  
↓教養、見識が高まった。

②読解力、表現力、想像力、創造力、洞察力などが身についた。

③心を落ち着かせ、豊かな気持ちの醸成に役立っている。

④人間としての在り方、生き方を示唆してくれる場面に遭遇する。

⑤日々の生活の中の、「潤い」「張り」「豊かさ」「情熱」「真摯さ」などを再確認させてくれる。

結びに、次の言葉で締めくくります。「読書百遍という様な言葉が、今日、もう本当に死語と化してしまっているなら、読書という言葉も瀕死の状態にあると言っているでしょう。」

(「読書について」P58より  
小林秀雄／中央公論新社)



# 「奇跡」と「キセキ」

## 『僕は奇跡しか起こせない』を読んで

さいとう ありあ  
 中学校1年1組 齊藤 愛梨亜

私が一番最近「奇跡」を感じたのは、夏のジュニアオリンピック（水泳競技）でのメドレーリレーです。私たちのクラブは七番エントリーで、予選八位以内に入らないと決勝には進めないのです。ギリギリの位置にいました。それでも予選では何とか六位に入ることができ、決勝に進むことができました。

本当に奇跡だったのは決勝レースのときに、ギリギリ予選を突破した私たちがなんと二位になって銀メダルを手にした事です。最終泳者がゴールタッチしたと同時に掲示板を見て自分たちのチーム名の横に「2」と書いてあるのが信じられなくてみんなで抱きあって喜びました。コーチだって、もしかしたら私たち自身だってまさか銀メダルを取れるだなんて思ってもいませんでした。でも現実に私たちは銀メダルを手に入れました。表彰台にあがって銀メダルを首にかけられるまで何度も夢ではないかと思いました。手にした銀メダルは前回の大会でもらった銅メダルより重く感じました。

でも、これは本当の意味での「奇跡」ではないのかな。辞書には「奇跡」とは「常識では考えられないような不思議な出来事」と書

いてありました。私たちの銀メダルはさすがに「常識では考えられないようなこと」とまではいいかないですからね。

この物語で、主人公の大好きな幼なじみは小学校四年生の時に亡くなってしまいます。それから「キセキ」という存在になって雨の日だけ主人公の前に姿を見せるようになります。「キセキ」という存在は辞書で調べた「奇跡」を起すのではなく、たとえば少しだけ時間を遅らせる、ちょっとだけ手をかしてホームランを打たせてあげるなどの手助けをする存在であり、人の生死にかかわることはタブーとされています。

この物語にはいくつもの「奇跡」が散りばめられていました。息子が突然死で失った幼なじみのお母さんが葬儀の最中に倒れたにもかかわらずお腹の子が無事だったこと、自分がお世話になった保健の先生の後任として主人公が赴任したこと、そして主人公が勤務している学校に、お世話になった先生の義理の娘がいたことなど。

それぞれの思いがからみあいがらやがてほどけ、一本のまつすがな糸となる。それも立派な「奇跡」なのかもしれません。

主人公の大好きな「キセキ」は、

最後に大きな「奇跡」を起こします。これが、彼が「キセキ」になった理由だったので。

主人公が命の危険にさらされた時に、身をもって主人公を守ることもができる。「キセキ」とはこの世に未練を残した魂だけがなることができる存在。その事実を知って私は思わず泣いてしまいました。自分以上に大切な誰かを守って消えてゆく存在。それが「キセキ」。

自分の強い思いを形に変えてそれを成し遂げられることも「奇跡」と言うことができるのだらうとこの本は教えてくれました。それならば、みんなで勝ち取ったあの銀メダルもきつと「奇跡」と呼ぶことができるでしょう。あの時確かに私たちは同じ事を思いそれを形に変えたのだから。



『僕は奇跡しか起こせない』

田丸 久深／宝島社

宝島社文庫

平成28年度

# 夏休み自由研究レポート紹介

『夏休みの自由研究』の中から 図書資料や情報メディアを活用し、丁寧な調査・研究がなされていると教科の先生から推薦を頂いた作品の紹介です。

いろいろな資料を活用することで研究内容が充実し、調べ学習や自由研究に対する興味・関心・理解度が深まっていくという結果が出ています。

この積み重ねが「自ら考える力」を養っていくことへとつながります。

さあ、あなたも自分の意見や考えを相手に十分に伝えることができる、そんなレポート作りに取り組んでみませんか？

社会レポート I



理科レポート II



理科レポート I



私が今回取り上げたテーマは、「貝の体の構造や生態について」です。テーマを選んだ理由は、アサリを食べた時に身に黒い所がありこの黒い部分が何なのかを知りたいと思ったからでした。

調査・研究の方法は

- ①生体（二枚貝・巻貝）を入手。
- ②各生体を解剖・採取・撮影する。
- ③本やインターネット、大学の教授の話を参考にしてレポートをまとめる。このような流れで研究を進めていきました。

始めに生体を手し解剖することで、それぞれの体のつくりをできるだけ細部にわたり調べました。また二枚貝と巻貝での比較をして相違点と共通点を調べました。またオープンキャンパスに参加した大学の研究室でも詳しく教わる事ができ理解を深める事ができま

理科レポート I

## 『Shellfishes』

高校3年K組 かね三 金子 のどか 和歌

貝は心臓があり血液が流れるなど生命を維持するための器官が揃っていました。脳としての器官はありませんでしたが、代わりに発達した神経節がありとても興味深い生物でした。

今後はこのような海洋生物が環境汚染や変化、温暖化による影響によってどのように変化していくのか大学で研究したいと考えています。

テーマ選択  
(身近なことから)

実験  
(解剖・採取・撮影)

図書館資料収集  
インターネット検索  
専門家のアドバイス

観察・  
考察

記録まとめ  
レポート  
作成

参考資料

- 『動物の多様性30講(環境編)3』馬渡峻輔/朝倉書店/2013年
- 『干潟生物観察図鑑』風呂田利夫・多留聖典・中村武弘(共著)/誠文堂新光社/2016年
- 『貝類学』佐々木猛智/東京大学出版会/2010年
- 『海の環境100の危機』東京大学海洋研究所DOBIS編集委員会(編)/東京書籍/2006年
- 海洋無脊椎動物の多様性 <https://jp.hao123.com/>
- 水産・海洋を学習する会 <https://jp.hao123.com/>
- 貝とは? <http://www.kanpira.com/>

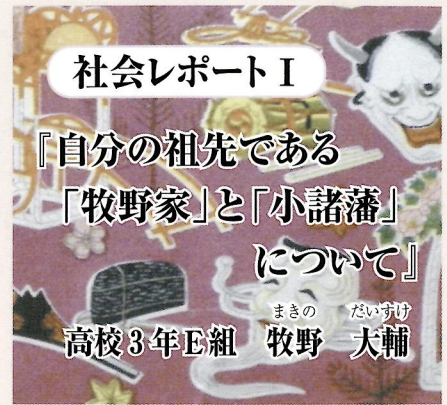
私が今回取り上げたテーマは、「自分の祖先である牧野家と小諸藩」です。テーマを選択した理由は、牧野家について調べることが日本史学習の集大成になるのではと思ったからです。

調査の方法は

- ① 牧野一族の本を手がかりにする。
- ② 現地へ足を運ぶ。
- ③ インターネットで調べる、です。

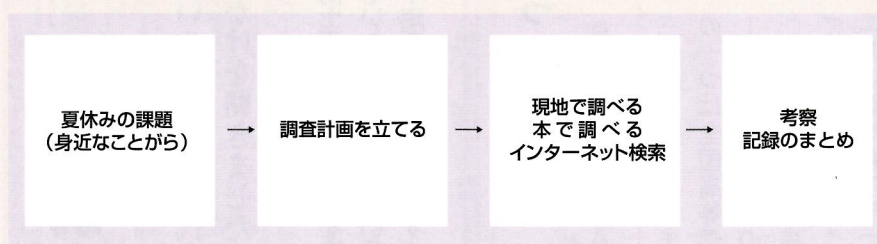
始めに、日本各地の「牧野」についてと、小諸藩の代々の城主から元禄十五年牧野康重が藩主になってから廃藩置県までの百七十年間十代を調べる事に決めました。

次に、小諸藩の歴代の藩主を調べるために直接現地へ出かけました。何回も行った事がある懐古園近くの牧野のお墓には、小諸藩六代、九代藩主の墓石がある事がわかりました。



また、インターネットでその時代の天災の酷さや、それぞれの藩主の功績を知り、特に九代康哉の領民二万人への種痘の実施は、大変な作業だったと思いました。

調査を行った過程で、私は二代藩主康周の血を引いている事がわかりました。そして、今まで以上に「牧野」という名に誇りと重さを感じる事ができました。



参考資料

- 『牧野一族』日本家系協会(編)／日本家系協会出版部／1976年
- 懐古園の歴史:小諸市オフィシャルサイト <http://www.city.komoro.lg.jp/>
- 牧野氏(氏勝系) -Reichsarchiv ~世界帝王事典~ <http://reichsarchiv.jp/>

私が今回取り上げたテーマは、「体幹・人体模型」です。テーマを選択した理由は、「人間の臓器についてが一番苦手な単元だったので、克服しようと思ったから」です。

作成の方法は、

- ① 材料を用意する。
- ② インターネットで調べる。
- ③ 本で調べる。
- ④ 下書きをして合わせ、ねんどで型取っていく。

この手順で人体模型を作っていくことにしました。

(調査手順)

始めに「臓器の位置」ということから調べていきました。

この作業の中で紙に下書きをし、作成計画の段取りを決めました。

次に、下書きをした上にねんどを置いていき、全体のバランスを

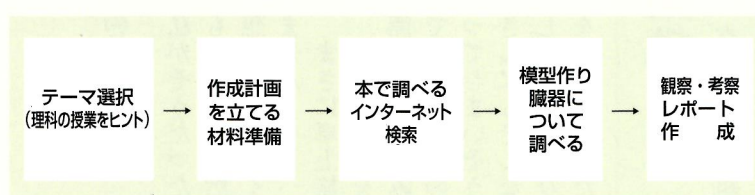


見て大きさを決めました。

また、インターネットや本で臓器の働きを調べました。

人体模型を作つてよかったことは、本などの図を立体模型にしたことで、臓器に対し今まで学習してきたこととは違った印象を持たれたことです。今回臓器を調べたら、ごはんを食べていて、むせるだけでも怖く感じました。

今後の抱負は、授業で習った事で気になったものは詳しく勉強していきたいと思いました。



参考資料

- 『カラー版徹底図解からだのしくみ』水野嘉夫(監修)／新星出版社／2008年
- 『からだと病気のしくみ図鑑』矢田俊彦(監修)／法研／2012年
- 『おなかのなかの赤ちゃん〈誕生までの成長〉』松村富代／岩崎書店／2014年
- 健康診断の基礎知識:体の仕組み: mediche <http://www.h-nc.com/>

# 生徒の広場

日頃から図書館を利用して文芸同好会代表三人に、本の楽しさや創作活動のきっかけを聞きました。

文芸同好会は、書いた作品を仲間同士で読み合い、意見を交換し、投稿もしています。顧問の先生にご指導をいただきながら、高い目標を持って創作にうちこんでいます。文芸誌は不定期で発行しています。

## 文芸同好会と出会って

高校3年C組 やえがし 八重樫 はるな 春菜

始まりはお話の続きを考えることからでした。

好きな作品の続きが気になり、勝手に描いてみる。これを続けていくうちにいつしか、作品の続きは独自の話に変わっていました。それならば、と私はオリジナルを描いてみようと思いついたのですが、当然のこと、そう簡単にはうまくいきません。

そんな折に文芸部という「環境」に出会ったのです。いつものように図書館に行き、偶然手にした部誌を読んで「描く場所を与えられた」、そんな気がしました。

その後すぐに入部し、これまで

三作品を描き上げました。その中の一つは全国高等学校文芸コンクールに出品するものです。

文芸部に入って描くようになって初めて気づいたことがあります。「人に見てもらおう」ということで、自分勝手に、自己完結に描いていた頃は「自分さえわかれば」よかったです。しかし、「人の目に触れる」ことで、もっと相手に伝えよう、その為にしっかりと構想を練ろう、そう思うようになりました。

自分が描いた物語を読んだ誰かに、「面白い」と思ってもらえるように今日も私は描き続けます。

## おすすめ卓上旅行

高校3年B組 こじま 小島 まきこ 摩紀瑚

今回私が推薦する本は、みなさんが普段手にとらないであろう2類（日本十進分類法）の本棚にある、『地球 不思議の旅』です。

虹色の環の中から沸き上がる温泉、錦のように色鮮やかな山々、この本に載っている風景をみなさんは現実のものだと信じられないでしょう。この全ての風景を創り上げたのは自然なのです。青く輝く洞窟の壁は冷たいのだろうか？純白の砂漠に吹く風は熱いのだろうか？

私がそうだったように、みなさんもきっと大自然の風景に胸躍らせ、想いを馳せたくなるにちがいないと思います。

まさに卓上旅行です。私はこの本を読んだ時、目を見開き、唇を噛みしめました。そうでなければこの風景を求めて旅立ってしまえばよかったから。みなさんにもそんな気持ちになっしてほしいです。ぜひ机の上で世界旅行を楽しんでください。

## 本がもっている可能性

高校3年B組 おくの 奥野 ともあき 智朗

「ついに、ついに見つけた!!」そう、それは一冊の本、ライトノベルだった。自分の読みたかった本と出会うために、数々の試練を乗り越え、時には困難、苦痛、絶望もあった。だからこそ、手に入れた時の嬉しさは今でも忘れられないものだった。一ページをめくると手に手がふるえ、内容が進むにつれてどんどん引き込まれていった。初めて手に入れた本ということもあるかもしれない。しかし、本を読んでいる時にふとこんなことを思ったのだ。

「この感動をみんなに伝えたい。そんな本を書いてみたい。」と。ぼくがここで言いたいことは、「本の大切さ」だ。どのように「大切」なのか？言葉で表すのは難しいのだが、ぼくは本には様々な可能性があると思う。そして、本はぼくに「感動を与えられる本を書きたい」という夢をもたらしてくれた。みなさんはどうだろうか？もしかしたら、周囲にある本が未来への鍵になるかもしれない。ぼくのように。

## 先生方から おすすめの本の紹介

「校内読書週間」「全校一斉朝の読書」をきっかけに、読書習慣を身につけましょう。

6人の先生方からうかがいました!  
図書館でも貸し出しできる本です。

読む力は簡単には身につけません。毎日少しずつ継続することが大切です。「本って楽しい! 続きが読みたい!」と感ずるようになれば、本はもっと身近な存在になります。まずは気になった本から手に取り、始めの一步を踏み出してみましよう! きっと感動の一冊と出会えるはずです。

### 『「世界征服」は可能か?』



三重野 由佳 先生

岡田 斗司夫 著

筑摩書房  
(ちくまプリマー新書)

みなさんは、「世界征服をしてみたい!」と思ったことがあるでしょうか。ある人も無い人も、ちょっと考えてみてください。仮面ライダーのショッカーとか、ポケモンのギンガ団とか、有名な悪の組織たちは、みんな世界征服を企んでいました。でも、一体何のために?どこからその資金は出ているの?戦闘員達が「イー!」って言いながらバイトしているシーンも出てこないし、あのどこにあるんだかよくわからないアジトの電気代の支払いも怪しいし、そもそも世界征服した後何をするつもりなのか、そしてなぜ、世界征服を

企んでいるのに襲うのは日本ばかりなのか。謎は深まるばかりです。そもそもショッカー側からしてみたら、ライダー達の方が「悪」なわけで、もはや意味がわかりません。そんな謎を少しだけ解き明かしてくれる(かどうかは微妙ですが...)のがこの本です。手に取った理由は、有名古本屋で見つけて、タイトルが面白いなと思っていただけですが、内容は思った以上に面白いです。現代社会で世界征服をこっそり企んでいるあなた、ぜひこれを読んで世界征服をしてください。きっとあなたなら、素晴らしい世界が作れるはずですよ。

### 『法隆寺を支えた木』



小川 俊春 先生

西岡 常一 著  
小原 二郎

NHK出版  
(NHKブックス)

「塔組みは、木組み  
木組みは、木のくせ組み  
木のくせ組みは、人組み  
人組みは、人の心組み  
人の心組みは、  
棟梁の工人への思いやり  
工人の非を責めず、  
己れの不徳を思え」※  
古い本ですが、以前中学二年の国語の教科書にも掲載されたものです。  
法隆寺は、現存する木造建築で最も古く、世界遺産に登録されています。  
この法隆寺を、保存修理に携わ



る「宮大工」の棟梁を務めた西岡常一氏の生い立ちや棟梁としての修業や棟梁に伝わる口伝などを紹介しながら、寺・伽藍、木材、道具などものづくりや人の組織づくりになどを紹介している一冊です。  
(※ P35より引用)

## 『よその子 見放された子どもたちの物語』



當間 菜奈子 先生

トリイ・ヘイデン著  
入江 真佐子 訳

早川書房  
(ハヤカワ文庫)

周りから誤解され、のけ者にされてしまった「普通」と違った子ども達。トリイの補習教室にはそんなはみ出し者が集められます。彼らと向き合うトリイの記録から、子どもの世界の魅力と、そこに寄り添う事の幸せが伝わってきます。私が子どもと関わる仕事に興味を持ったきっかけの一冊です。厳しすぎる現実と混乱した日々の中で、まっすぐに生きる子ども達の強さ、ひたむきさが、特別でない命などないという事を思い出させてくれます。皆さんが大人になる前に、読んでほしい一冊です。

## 『18歳からの民主主義』

神山 知徳 先生



岩波新書編集部 編

岩波書店  
(岩波新書)

かつて選挙権を持つにはそれなりの財産を持つていなくてはなりませんでしたが。そうした人々を「公民」と呼んでいました。しかし今は違います。十八歳に達していれば、誰でも選挙権を持つことができます。「誰でも持つことができるけれど、他の人には決して譲ることができない権利」それが選挙権です。選挙で投じる一票は、政治を確実に変える力があります。本書はそうした一票の意味を、数頁から十数頁程度の比較的短い文章で伝えてくれます。

## 『ラグビー日本代表ヘッドコーチ エディー・ジョーンズとの対話 コーチングとは「信じること」』



里見 香代子 先生

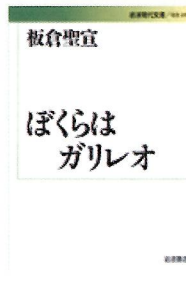
生島 淳 著

文藝春秋

コーチにとって大切なのは、「選手はなぜそういう決断をしたか」を考へること。ラグビー元日本代表ヘッドコーチ、エディー・ジョーンズさんのコーチング論を紹介した一冊である。指導者向けの一冊だが、日本人の教育観について書かれており、日本人に足りない「表現力」や「自分の強みを持つこと」をいかに引き出すか選手とのコミュニケーションを通してよく書かれている。自分の強みを活かしてアピールすることがこれから社会の中で生きていく為に必要なことではないだろうか。

## 『ぼくらはガリレオ』

草薙 浩二先生



板倉 聖宣 著

岩波書店  
(岩波現代文庫)

『岩波科学の本』の一つで、一九七二年に発刊されました。長く絶版でしたが、文庫本化されました。古代ギリシアのアリストテレスは、「重い物ほど早く落ちる」と考え、中世まで信じられていました。しかし、ガリレオは盲目的に従うのではなく、自分で実験を行い、実際に起こる現象を自分で確かめるといふ方法で、彼の考えは間違いだといふことを示しました。現在では、ガリレオは「科学の父」とまで言われています。そのガリレオの考へた道程を辿る本です。